

第8回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和6年 3月11日（月）

時間：14：00～16：00

場所：京都国道事務所5F会議室

1. 京都観光を取り巻く情勢を踏まえた今後の方向性について

- 国内外の観光需要の急速な回復に伴い、京都観光を取り巻く情勢が変化し、様々な観光課題が顕在化していることから、本協議会の今後の方向性について提案を行い、委員からの承認が得られた。今後、情報提供システム等の検討・構築を進めていく上での主な委員意見は以下のとおり。
 - 今回掲げられた方針や方策は進めていくべきであり、一定の効果は期待できると思うが、この方策で十分かどうかは分からない。今後のステップとしては KPI（重要業績評価指標）や KGI（重要目標達成指標）等の定量的な評価指標を設定し、進めている方策が混雑に対して根本的にどこまで効果があるのか等の評価を行わなくてはならない。評価した上で目標に足りない場合は他の方策の提案もあり得るので、総合的な観光交通対策を考える上でも重要ではないか。
 - 道路交通に関しては交通混雑が緩和されていた時期もあるので、評価指標を設定する際はそこを一つの指標とすれば良いのではないか。
 - 観光行動というのは急速に変化していくものなので、観光客の訪問地等の実態把握を継続し、次に起こりうる問題を予測するための指標の一つにしてはどうか。
 - 観光客の分散化を図る上で、観光という目的を考えるとただ空いていれば人が移動する訳ではないと思うので、観光客の思考や好み等を考慮し、有効な代替案をリコメンデーションすることも必要なのかもしれない。
 - 駐車場予約によってうろつき交通等が減れば良いが、予約せずに来た人が更にうろつく危険性もあり得るので、まずは京都市内中心部に流入してくる車を抑えることが重要だと思う。なので、京都市が推進するパーク＆ライドと駐車場予約システムが上手く連動し、パーク＆ライド登録駐車場等へ誘導できれば良いのではないか。

2. 令和5年秋の観光シーズンの観光需要や交通実態

- 事務局より ETC2.0 プローブデータや人流データ等を用いた分析結果について説明を行った。また、京都市歩くまち京都推進室から令和5年度の東山交通対策の実施結果等について情報提供が行われた。それらを踏まえた主な委員意見は以下のとおり。
 - 都心の駐車場容量に余裕があることが定量的に表されたことは今回新たな発見であり、一元的な駐車場満空情報はもっと積極的に発信しても良いかもしれない。一方で京都市の施策としてはマイカー観光を助長してもいけないという側面もあるので留意して頂きたい。
 - 東大路通の渋滞を考える上で、高台寺南門通の交差点だけでなく東山五条交差点もボトルネックになっていることは明らかなので、歩行者やバス待ちによる影響等を検証しても良いかもしれない。また、観光目的の車がどこから発生するのか疑問が残るので、民間駐車場を含めた駐車場利用実態等も検証していく必要があるのではないか。

3. 混雑情報提供による実証実験の結果報告

- 事務局より令和5年度の実証実験の結果について報告を行った。また、(公社)京都市観光協会から観光統計の内訳や京都市交通局から京都市バスの運行情報のオープンデータ化に関する取り組み等の情報提供が行われた。次年度以降の実験を検討していく上での主な委員意見は以下のとおり。
 - 観光客の態度や行動の変容が結果としてみられているので、この実験ならびにその方向性について異論はないが、京都の観光混雑を考える上で悩ましいのが公共交通へ転換してもらうことが必ずしも良い訳ではない。本プロジェクト全体は情報提供を中心とした観光客の時間的・空間的の分散を図るという帰結になるが、どうすれば時間的・空間的分散を図るのは難しい問題でもある。観光客は空いている場所に行きたい訳ではないので、今後何をもって時間的・空間的分散をしてもらうのかを真剣に考えていかなければいけない。もう一段階きめ細かい時間的・空間的分散を方策として掲げないと中々有効に機能しないのではないか。
 - 行動変容というのは一つのターゲットではあるが、過度に行動変容されると逆の集中が発生してしまう。渋滞の観点でいうと数パーセント交通量が転換すると十分と言われているので、そのあたりが目指すべき量的な指標となるのではないか。
 - 観光施設や誘客に関する情報は、地元機関や観光協会等の方が情報をお持ちだと思うので協力し合いながら取り組んでいってはどうか。また、観光地の特性と考えた時に、属性の類似性が高くて空いているところをレコメンドすることも方法として考えられるので、そのあたりも含めて検討・議論していければよいのではないか。
 - 時間分散を考える際に、日帰り観光客は時間的制約もあるので中々難しいと思うが、宿泊を伴う観光客であれば時間分散の自由度が大きいと思うので、宿泊客をターゲットとした情報発信も有効かもしれない。
 - この実証実験による影響は一定あるとは思っているが、一方で観光客の増減等の外的要因に左右される部分も大きいと思う。次年度以降も同様の実験を継続されるのであれば、直接的な因果関係を立証する手立てについて検討して頂きたい。

4. その他

- 事務局より、混雑情報システムおよび駐車場予約システムの構築にあたって、各々の分科会を随時開催して議論していくことの提案を行い、委員からの承認を得られた。参加するメンバーや開催日程等の詳細については、事務局で検討した上で調整を行う。会議全体を通じた総括は以下のとおり。
 - 今回2つの新たなシステムがある意味でのプラットフォームとして機能していき、先々は様々な情報やデータが統合されていけば良いと思う。そこに色々な地元機関が取り組まれている施策等も盛り込んでいくことが必要でないか。
 - 様々な実態が定量化・見える化することは重要だと思うのでデータ取得は継続して頂きたいが、観光における行動変容で悩ましいのは客観的評価が中々難しいので、その手立てをどう考えていくかは今後の課題だと思われる。
 - 評価指標を定めることは重要であり、対策と連動した形で提供すべき情報を考えていく必要があると思うので、そのあたりも含めてご検討頂きたい。
 - 観光混雑に関しては京都だけでなく各地で問題になっており、都市によっては観光客を抑制するような対策や予約制を導入しているところもある。なので、参加されている皆様がお持ちの知識あるいは経験を束ねることでそれら方策が検討でき、周知が不十分な施策があるならばこの情報提供システムを活用して周知していけば良いのではないか。